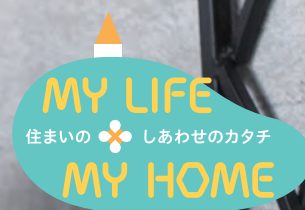


# 照英

タレント



僕にとってわが家は〝宝箱〝  
大好きな家族、大好きなモノだけに  
包まれて過ごす最愛の場所です

学生時代にはやり投げ選手として全国大会で活躍。

俳優業を封印したのちも、多くのテレビ番組に出演し、

飾らない熱い言葉を通して私たちに感動を届けてくれる照英さん。

常に新しいジャンルへの挑戦を続ける日々の背後には

家族と住まいをなによりも大切に思う思いがありました。

## Profile



## 照英 (しょうえい)

1974年生まれ。埼玉県出身。高校～大学時代は陸上競技のやり投げに集中し、1996年の全日本学生選手権とひろしま国体では準優勝した。卒業後はモデル活動ののち、1998年に『星獣戦隊ギンガマン』のギンガブルー役で俳優デビュー。『水戸黄門』『新選組!』『里見八犬伝』などで主要な役を務めてきた。結婚して長男が誕生してからは仕事を俳優業からバラエティにシフト。著者に『親子で運動会を勝ちにいく 5つのコツでグングン走れる。親子でやりきる一週間』『自分らしく媚びずに生きる 俺の自己啓発!』など。


**実家や寮の4畳半から  
広い部屋へとステップアップ**

実家は埼玉県の鴻巣市。荒川の土手の近くです。学校は小中高とも近所にあり、土手を自転車通学していました。土手と共に育った感じですね。都会には遠いし、自然に囲まれてのんびりと過ごしていました。両親と姉の4人家族にワンちゃんもいて。今も両親が暮らしている家は小さな建売住宅です。僕の部屋は4畳半。少年野球をしていた頃も高校でやり投げを始めてからも、その部屋で研究やトレーニングをしていました。狭い部屋ですが、当時は十分な広さと感じていましたね。今も実家に帰ると、そこで感じていた達成感や悔しい思いがよみがえります。家の温かさや空気感も小さい頃のままだす。

東海大学では陸上部の寮で生活しました。ここでも4畳半です。一人部屋なのはありがたいことでしたが、不思議な造りの建物でしたよ。相当に古い建築で、すきま風は入るし床は傾いている。部屋のトイレの入り口は襖で、向こう側の襖を開ければ隣の部屋。お風呂も、いったん外に出て建物脇から入るんです。みんな若いし体もがっしりしているから、裸にバスタオルだけ巻いて路上を歩く姿はまるで相撲部屋みたいでしたね(笑)。

もちろん体育会ですから上下関係は厳しく、朝早く先輩を起こしたり買い物に走ったりといろいろありました。でもその暮らしに耐えることが糧になりました。休みの土日にみんなで食材を買って焼肉などで盛り上がったのも楽しい思い出です。

学生時代からモデルの仕事は少しずつしていました。肩を壊して陸上を諦め、最初に住んだのはモデル事務所に近い学芸大学駅周辺です。家賃6万円程度のところを探し、6畳+3畳の半地下のような部屋へ。財布に500円しかないこともザラな日々、交通費も惜しいので自転車でがむしゃらにオーディションに出向いていました。2年後、少しは仕事も入るようになって家賃10万円の10畳ワンルームへ。1階がスーパーで、夕方は値引き商品が買えるのが魅力でした。ここでも2年暮らし、ようやく役者としての収入も安定して、同じエリアで家賃23

万円のマンションに移りました。ずっと賃貸だったので2年ごとに更新があります。それがちょうど、ありがたいことですが仕事が増えていった時期と重なっているんです。

また2年後、新築マンションの賃貸の部屋に移りました。家賃は約30万円。そこで一人暮らしをしていた時に妻と出会い、長男も生まれました。

当時は寝る間を削っても仕事をしようと考えていました。大学時代に釣り道具店のバイトで貯めた100万円だけ持って東京に出て、とにかく頑張る。芸能界の仕事で一步ずつ進むたびに、住まいもレベルアップできた。家を変えることは大きなモチベーションでしたね。


**妻や長男と心豊かに暮らすため  
俳優業からバラエティに**

長男が1歳になって、建売の戸建てを購入しました。仕事のしかたを考え直したのはその頃です。時代劇では撮影所がある京都でホテル暮らし。下着を洗濯する余裕もないし、ほかに大阪や東京で撮影するドラマもあります。自宅では妻が一人で子育てをしている。たまに帰宅してもとにかく忙しく、妻の言葉にちゃんと応えることもできない。自分はそういう人間ではないはずだったのに。何のための結婚、何のための家族なのか。そこでふと、人生を変えなければと思ったんです。

33歳の時、俳優業をやめ、妻や長男と過ごす時間を持てるようになりました。その決断は冒険でもありましたが、旅番組、子育て番組など思わぬ新しい仕事があっただけで。架空の役を演じるのでなく自分のままと表現していい、こういう仕事があったんだと気づかされました。

こうしてシフトチェンジして、もう20年近くになります。ありがたいことにさまざまな仕事の機会をいただき、その全部が楽しいです。自分自身が“やりたいこと”というのはいないんですよ。正解などわからないからおもしろい。僕は、いい意味ですが反省はしないんです。嫌なことを振り返って悔やむよりは、それをプラスに考えて前に進みたい。今49歳の照英にはこんなことができるのか。次の50歳では何ができているだろう? そうやって、これまで見えなかった可能性



を発見していく楽しさといったありません。自分を全部さらけ出した先に次があるのだと考えています。

### 初めて建てた今の家では リビングこそが僕の居場所

今、高校2年の長男、中2と小1の娘との5人で18歳になる愛犬と暮らしています。うちの家族は本当に仲

がいいんですよ。きょうだい喧嘩も一度も見ていません。

14年ほど住んだ建売住宅の頃は、14畳の部屋中をベッドにして全員で寝ていました。家族みんなで寝たくて。長男も、一人で寝ていいよと言っても中3まで一緒にしたね。それがわが家の当たり前でした。リビングと寝室は、家族で過ごす場所として大切にされたかったです。

さすがに手狭になって、初めてマイホームを建てました。設計で一番に重視したのは妻の思いです。建売では家事にも不便だった点を使いやすく考え、満足してもらっているようです。子どもたちの部屋も作れました。

僕の部屋？ ないんですよ。趣味の釣り道具を取めた部屋はあるんですが、いつもの居場所はリビング。家族と会話しながら過ごすのが一番の喜び。外の店で飲むこともほぼありません。大好きな家でのんびりビールなど飲むことに勝る幸せはありません。

### 住まいは鎧のように 家族の幸せとくつろぎを 護ってくれる場所です

家とは、自分や家族を護る鎧のようなものだと感じます。外でどれほど苦しいことがあっても、すべてほどこき、温もりの中で好きなように過ごせる場所。故郷の4畳半に始まったこれまでの住まいの経緯を振り返ると、ひとつずつ自分の思いを形にしてきた過程のようにも思えます。他と比較しちゃいけない。理想の暮らし方は家族それぞれですから。それは家だけではありません。子どもたちにも、仕事であれ人間関係であれ他人と比べることなく、自分で最高と思える人生を歩みなさいと言っています。もちろん、そう話す僕自身、今も最高の人生だと思っていますから。

僕にとって家は妻や子どもたち、くつろげる場所……と大好きなものだけが詰まった宝箱なんです。3人の子らの小さい頃の品などもすべて大事ですし、大きくなった今の対話一つひとつもうれしい。よく育ってくれたなと思うとつい、18歳の長男も抱きしめて泣いちゃうし(笑)。

誰もが家族を護る鎧として自分の家を持って欲しい。そのなかに人生の楽しさと幸せを作ってください。

インタビュー動画は住宅金融支援機構(JHF) YouTube公式チャンネルでご覧いただけます  
[https://www.youtube.com/playlist?list=PLcbOj07XtnfKA4\\_r\\_69-mElwHrGxjyKXi](https://www.youtube.com/playlist?list=PLcbOj07XtnfKA4_r_69-mElwHrGxjyKXi)

